第2学年 道徳科 学習指導案

- 1 **主題名** 「互いを高め合う生き方」 A (3) 向上心, 個性の伸長
- **2 題材名** 2 学年 「嫌われるのを恐れる気持ち」

3 本時のねらい

他者とのかかわりの中で自分らしさを発揮していこうとする「個性の伸長」について、自分と相手の立場を多面的に考えるための対話を通して、自己を見つめ、自分自身が納得できる生き方をしていこうとする道徳的実践意欲をもつことができる。

4 主題設定の理由

(1) 主題と生徒観

「個性の伸長」の「個性」とはその人固有の持ち味である。個性を生かして対処していくことが、よりよい人生につながるものと考える。よって中学生の時期に、自分の個性について理解し、それを生かして、これからどのように生きていくか考えさせることは、とても重要であると考える。しかし中学生になると、他者との比較において自分を捉え、他者と異なることへの不安から個性を発揮することに消極的になることがある。また、他者の反応を気にするあまり意見が異なることからの周囲との摩擦を恐れ、自分の本心を隠して過剰に同調し、自分の持ち味を発揮できないでいたりする。

これまでの学校生活においても、他者との関わりの中で自分らしさを発揮することが、充実した生き方につながることは学んできた。しかし、自分らしさを発揮することで、他者と異なることを、極端に嫌がり、自分の意見とは異なるにもかかわらず愛想笑いをするなど、友だちとの関わりに疲れを感じる生徒も少なくない。しかし、一人ひとりは異なるものであるからこそ、他者との関わりから、対立が生じることもある。だが、それは互いが充実した生き方をするための必要不可欠なステップである。生徒相互の信頼関係を基盤として、互いに指摘し合い、高めあう人間関係を作っていこうとする道徳的実践意欲と態度引き出していきたい。

(2) 主題と教材観

① 使用する教材について

中学生になると自分に自信がもてず、狭い視野から嫌な面ばかり見えたり、劣等感をもったりすることがある。また、他者と自分とを比較し目立つことを恐れ、周りと同調することで自分の安心を確保する傾向にある。

本教材は、自分の性格に劣等感や不安をもった中学生が書いた手紙を通して、個性について考えていくものである。「僕」の言う「嫌われるのを恐れて自分の感情を隠している自分」と「先生」の言った「自分の本性を素直に発揮してこそ、生きがいがある」という二面に着目させ「嫌われるのを恐れるということは、人間の生き方として、ひきょうで臆病なことでしょうか。」という問いに、自分と重ね合わせ、自分の今の在り方について省みさせる。ここでは「本性」を「自分らしさ」と捉えさせる。自分らしさを考えながら、目指す自分の姿に近づけるためにどのようにすればよいかを考えさせる。

他者との関わりの中で自分らしさを発揮し、自分の持ち味を良い方向へ伸ばすことが充実した 生き方につながるということに気づかせるよい教材と考えている。

② 新潟市道徳部3つのキーワードと本時との関連

1時間目は、題材の「僕」と自分を重ね合わせ『題材との対話』→『自己との対話』へとつなげる。自分を見つめ直すことから自分らしさを発揮することに躊躇し、時には恐怖心を抱いていることに気づかせる。(対話)

2時間目には、『他者との対話』より、自分らしさを出すことに戸惑いを覚えるのは自分だけではないことに気づかせる。しかし、自分らしさを発揮することが互いの成長につながる(**最適解**)

ものの、時にはそれが衝突を生むこともある。けれどもその衝突は決してマイナスだけではない。 互いに向上しようとするときには、意見が食い違うこともあるものだ。だから自分らしさを発揮 しないという選択をせず、他の対処法を対話によって考えていきたい。(**多面的・多角的**)

自分自身が納得して,自己の向上を図ろうとする生き方について考えるために,教師と生徒の対話を重ね,生徒を納得解に導いていきたい。(納得解)

5 本時の学習課題

自分も相手も成長するためにどうしたらよいだろうか。

6 2/2時間目の展開

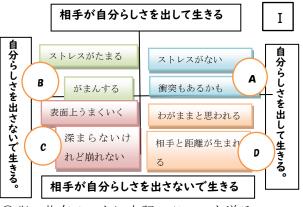
学習活動・学習内容と生徒の姿 ◎教師の支援・指導 ●留意点 導入 ①前時の振り返り(3分) ○あらかじめ示したグループ(6人×3グルー ・「嫌われるのを恐れるということは、人間の プ, 5人×3グループ) にする。 生き方として, ひきょうで臆病なことかどう 黒 板 か」ということ。 ・意外にみんな出していない。 В ・自分らしさを出して生きているという人もい ることに驚きだ。 W やっぱりみんな同じだ。 WB WB 分らしさを出さないで生きる 分らしさを出して生きる ○ファシリテーター, ライターを決めておく。 ○「僕」の悩みを再確認する。 ○前時にとったグラフを掲示し、学級全体の 「自分らしさ」を出しているかどうかを再 生徒が「自分らしさを出さないで生き 度確認する。 る」に寄ると予想 ○テレビにて確認する。(共有ノートの提示) <学習課題> 自分も相手も成長するためにはどうしたらよいだろうか。

展開

- ②課題に対しての多面的な捉え(8分) それぞれの場合において、予想されることを 考える。
- ・「相手が自分らしさを出して生きる」そして 「自分も自分らしさを出して生きる」は、い つもそのままだから正直に素直に生きて、ス トレスがない・・A
- ・「相手が自分らしさを出して生きる」で「自分が出さないで生きる」と我慢することが多くて、疲れる・・B
- ・「相手も自分も『らしさ』を出さないで生きる」は、表面上はうまくいくけれど、お互い気を使っているから親友にはなれない。・・C
- ・「自分らしさを出して生きる」と「相手が自分らしさを出さないで生きる」と自分だけ仲良くなっているような気になるかもしれないし、相手の気持ちが分からないから嫌だ。・・D

<発問>

相手と自分が「自分らしさ」を出して生きるときと、出さないで生きるときに、それ ぞれどんなことが予想されるか。



- ○班の共有ノートに上記のツールを送る。
- ○より多くの可能性を出させるため, グラフの 見方を確実に捉えさせる。 ★話

《他者との対話》

自分の生活経験をもとに、自分や相手が 「らしさ」を発揮した時の、その後を考える。

- ・右上のところにいたら理想的だよね。
- ・互いに自分らしさを出せたら、とてもいい仲間関係になるよ。
- ・お互いに伸びることが成長だから、心の中で 思っていても表現しないと成長につながらな いのかな。

《対話→多面的》

それぞれのメリット・デメリットを図の 中に示すことによって、現在の自分を振り返ると共に、他者の考えを知る。

<中心発問>

自分も相手も成長できるのはどこだろう。

最適解

対話

【まとめ】=【最適解】

自分も相手も「自分らしさ」を出した上で、互いを高めようとすることが大切だ。

③自己との対話による多角的な考え(10分)友だちとの関わりについて振り返る。

- ・友だちも自分もよく笑っているし、お互い自 分らしさを出していると思うから A だ。
- ・友だちは自分らしさを出していそうだけれ ど、自分は面倒なことになりたくないから言 いたいことを言ってない。だから B だ。
- 自分も相手も「らしさ」を出さないほうが、 うまくいくことが多いから C だ。
- ・自分は自分らしさを出していると思っていた けれど、他の話を聞いていたらみんな出して いないかもだから D だな。

<指示>

学級にいるいつものあなたは, グラフのどの ポジションですか。

○各グループの共有ノート上の10ツール内に 自分の位置を明確にさせる。



Aの生徒が少なく、BCD に生徒がばらけると予想。

○学級にいる自分であり、仲良しの友だちといる自分ではないことを確認する。

《多面的→多角的・自己との対話》

多面的に捉えたことを,自分事として考える。

<指示>

それぞれなぜその位置なのか,説明してください。

○ファシリテーターには、メンバーとの会話から積極的に質問するように促しておくが、ヒントカードも配布しておく。

〈ヒントカード〉

- ●友だちがなぜそのポジションにしたか聞く。 (ぐいぐい突っ込んで聞くこと)
- 2共感する言葉や分からないことを質問する。
- ❸他の人にどこに共感するのか経験をもとに話をしてもらう。
- ○グループでの話し合いを全体で共有する。

- ・僕は A にしたんだけど, なぜ C に置いたのか 理由を教えてください。
- 学校にいると、やっぱり隠している自分がいると思う。
- ・隠している自分とは、どういうこと?
- ・隠しているつもりはないのだけれど、他の人 の反応が怖くて自分が思ったことを素直に言 えないことがある。
- ・他の人の反応って怖いよね。他に、他の人の 反応を気にする人はいるかな。

④納得解を導くための対話(20分)(グループ→全体)

衝突するから「私らしさを出さない」場合

- 友だちと気まずくなるのは嫌だし。
- ・どうすればいいのかわからない。
- ・自分らしさを出した方が成長するのは分かる けれど、できるか分からない。
- ・とても疲れるから何も言わない方がいい。
- ・相手の様子を見ながら話して、ダメだと思ったら引く。

衝突しても「私らしさを出す」場合

- 我慢はダメだから、自分の言いたいことは言う。
- 気まずくなっても仕方ない
- ・気まずくならない方法はないのか。
- ・衝突してもお互いに思いを伝えた方が逆に人間関係が良くなると思う。
- ・よく相手の話を聞く。
- ・相手と話をして、互いが納得するところを探す。
- ・少しずつ意見を言うようにしていくといい。
- ・衝突は悪いことではないから、ゆっくり時間をかけて互いに理解していく。

終末 (9分)

⑤振り返り

今後自分らしさを出して生活できるようにするために、どのように行動するのか、今までの自分となりたい自分についての考えを書く。

<発問>

互いに自分らしさを出して、衝突したらどう しますか。

- ○教師がファシリテーターになり、納得解を導 くための問い返しをする。
- ○自分らしさを出すことが互いに成長するという「最適解」を再度確認する。
- ○意見が衝突することが悪いことでないという ことを確認する。
- ○成長のためには、自分の意見を伝えることも 大事であると押さえる。 対話 最適解

最適解から納得解につなげるために, 問い返しを行うことで, 多面的に考えたことを さらに深く多角的に思考を働かせる。

<発問>

自分らしさを出して衝突したら、今の自分に何ができるだろう。

- ○互いに「自分らしさ」を出し、円滑な仲間関係を築くにはどのようにすればよいのかを生徒の言葉を使いながら考えさせる。
- ○他者との関わりの中で、自分らしさを発揮していくことを押さえる。 対話 最適解

教師との対話を通して,自分事 として考えるような問い返しを行う。

- ○振り返りの時間を十分に確保する。
- ○今までの自分と今後の自分について書くよう に指示する。

7 生徒の姿 (評価)

(1) 評価方法

[評価方法] 対話の様子やノートへの記述を基に評価する。

[評価基準] 「自分らしさ」について考えることを通して自分の仲間との関わりについて省みて自己理解をし、自分の思いを伝えようとすることが成長への第一歩だと振り返りに具体的に記述している。

(2) 目指す生徒の深い学びの姿

最適解

人には誰でもよく思われたいと思う。だから 思ったことをなかなか言えない。自分は違うな と思っても,友だちに合わせてしまう。友だち に自分の本音を語れたら,もっと深い人間関係 を築けるのではないかと今日の授業を通して思 った。素直に自分を表現することが,偽りのな い人間関係を築く第一歩だ。だから,今度から は,自分の気持ちを表現できるようにしていき たいと思う。

納得解

私は弱い人間かもしれない。友だちと意見が異なることが嫌で、主人公と同じようにいつも自分の気持ちを隠して過ごしている。嫌われたくないというのもあるし、本当の自分を見せるのが恥ずかしいという気持ちもある。しかし、〇〇さんの意見を聞いて、互いにらしさを出さない人間関係は希薄だと思った。相手の意見に合わせるだけではなく、ありのままの自分で接することができる友だち関係を築いていきたい。